

インドネシア語の「二重目的語構文」 —英語との対照から—

“Double-Object Constructions” in Indonesian

長南 一豪
CHONAN Kazuhide

SUMMARY

The purpose of this paper is to explore “double-object constructions” in Indonesian. Indonesian seems to have double-object constructions whose word order is similar to those in English. But the constructions are essentially different from those in English. The function of the verbal suffix ‘-kan’ is to give a sentence benefactive meaning, rather than to make it a double-object construction. This function is similar to that of ‘yarimorai’ verb in Japanese. In this paper, we will claim that the indirect object in the double object construction cannot be the subject in its passive counterpart. We conclude that the essential function of the verbal affix ‘-kan’, ‘di-’ and ‘di-kan’ in Indonesian seem to be related to the “focus” in the Austronesian language family, such as Pilipino (Tagalog).

はじめに

インドネシア語には、語順の上で英語によく似た「二重目的語構文」がある。従来、インドネシア語の「二重目的語構文」は、英語の二重目的語構文とほぼ同じものである、とされてきた。しかし、インドネシア語の「二重目的語構文」、およびそのような構文を作る（とされている）動詞接尾辞 -kan の機能を詳細に検討すると、統語的にも意味的にも、英語の二重目的語構文とは本質的に異なるものと考えられる。この論文では、インドネシア語の二重目的語構文と関連する与格構文・便宜供与文、およびその受動態のふるまいについて、英語・日本語の同種の構文と対照しながら分析を試みたい。

1 インドネシア語の「二重目的語構文」

まずはじめに、英語の二重目的語構文について説明する。

1.1 英語の二重目的語構文

英語の「二重目的語構文」とは、次のようなものである。¹⁾

(1) He sent his son the book.

S V O O

「彼は息子に本を送った。」

- (2) He bought his son the book.
S V O O

「彼は息子に本を買ってやった。」

これらの文は、日本の英語教育では SVOO の構文（第 4 文型）とされ、英文法では二重目的語構文 double object construction と呼ばれている。そして、次のような書き換えが可能である。²⁾

- (3) He sent the book to his son.
S V O

- (4) He bought the book for his son.
S V O

(3) (4) のように、「誰に」の部分に前置詞をつけて後ろにまわした文を与格構文 dative construction と呼ぶ。学校文法では、SVO（第 3 文型）になる。与格構文という呼称は、ラテン文法において「誰に」にあたる部分を与格 dative と呼ぶことに由来する。一方、the book のような「何を」にあたる部分是对格 accusative と言う。

(1) ⇔ (3)、(2) ⇔ (4) の書き換えを与格交替 dative alternation と呼ぶ。与格交替を行うとき、英語では動詞によって (1) ⇔ (3) のように前置詞 to を用いるものと、(2) ⇔ (4) のように前置詞 for を用いるものがある。

表 1 英語の to 与格動詞と for 与格動詞

前置詞 to を用いる動詞 (to 与格動詞)	give, send, teach, write, sell, etc.
前置詞 for を用いる動詞 (for 与格動詞)	buy, make, find, cook, sing, etc.

なお、ask のように前置詞 of をとるものや、cost のようにつねに二重目的語構文をとり与格交替しない動詞もある。また、choose のように、二重目的語構文をとるかどうか話者（地域）によって判断の分かれる動詞もある。

1.2 インドネシア語の「二重目的語構文」

インドネシア語には、英語にとてもよく似た「二重目的語構文」がある。

- (5) Ia mengirim anaknya buku itu.
He sent his son the book.

「彼は息子に本を送った。」

- (6) Ia membelikan anaknya buku itu.
He bought his son the book.

「彼は息子に本を買ってやった。」

インドネシア語は、基本的に英語と同じく SVO の語順であるので、これらの文ではほぼ英語の逐語訳が可能である³⁾。以下、このように英語と対照して示す。

さらに、英語の与格交替のような現象もある。

(7) Ia mengirim buku itu kepada anaknya.

He sent the book to his son.

(8) Ia membeli buku itu untuk anaknya.

He bought the book for his son.

「～に (対して)」という意味の前置詞 *kepada* や、「～のために」という意味の前置詞 *untuk* を用いて、「与格構文」を作ることができる。

これらの構文が、はたして英語同様の二重目的語構文や与格構文であるのかは、よく検討する必要があるが、とりあえず英文法用語を用いて、(5) (6) をインドネシア語の二重目的語構文、(7) (8) を与格構文と呼ぶことにする。また、(5) ~ (8) の文における *anaknya* 「息子に」を与格 (= 間接目的語)、*buku itu* 「本を」を対格 (= 直接目的語) と呼ぶ。

インドネシア語の二重目的語構文と与格構文は、外見上英語とあまりにもよく似ているため、これまでさまざまな誤解を招いてきた。また「英語と同じ」と即断され、真剣に注意が払われてこなかった感もある。たしかに構文上似ている点があることは認めるが、アウストロネシア語族に属するインドネシア語とインド・ヨーロッパ語族の英語とでは、本質的なちがいはあることはまちがいないであろう。本論文では、従来のインドネシア語二重目的語構文に関する説を検証・批判し、実際の用例をふまえて、新たな解釈を提案する。とくに、従来欠けてきたように思える、「アウストロネシア語族としての」インドネシア語二重目的語構文という視点から、分析を試みたい。

2 従来の解釈と問題点

日本において、インドネシア語の「二重目的語構文」を、言語学的な観点から詳細に扱った研究は存在しない。また辞書も、インドネシア語 = 日本語辞典は言うに及ばず、インドネシア語 = 英語辞典やインドネシア語 = インドネシア語辞典でも、動詞がどのような構文をとるのかといった情報を与えてくれるものはない。そこで、インドネシア語の入門書として広く利用されている、バタオネ・近藤⁴⁾の説を紹介し、問題点を考えてみたい。

2.1 *untuk* 与格動詞

バタオネ・近藤は、「他動詞に接尾辞『-kan』が付くと、直接目的語 (～を) の他に間接目的語 (～に) をとる⁵⁾」としている。以下、バタオネ・近藤の解釈をまとめる。

インドネシア語の他動詞の多くは、能動態 (SVO の語順) のとき接頭辞 *me-* をとる。

(9) Ia membeli buku itu.

He bought the book.

動詞「買う」の語根は *beli* であるが、このように Ia 「彼は」を主語にして SV の語順にすると、接頭辞 *me-* をつけて *membeli* という形になる。他動詞 *membeli* は、直接目的語 (対格) *buku itu* 「本を」を取り、SVO の構文を作る。

他動詞 *membeli* に接尾辞 *-kan* をつけ *membelikan* という形にすると、直接目的語の他に間接目的語をとり、二重目的語構文になる。

(10) Ia membelikan anaknya buku itu.

He bought his son the book.

英語では、動詞 bought (buy) の形が変わることなく二重目的語構文を作るが、インドネシア語では、接尾辞 -kan を付ける必要がある。

一方、(9) の文は、文末に前置詞 untuk 以下で「~のために」を付け加えることができる。

(11) Ia membeli buku itu untuk anaknya.

He bought the book for his son.

つまり、バタオネ・近藤によれば、接尾辞 -kan をつけた他動詞 membelikan は、二重目的語構文のみ取ることができ、前置詞 untuk を用いた与格構文ではもとの他動詞 membeli を使うことになる。言い換えると、接尾辞 -kan の機能は、単目的他動詞を二重目的他動詞にすることである。(11) の文は、untuk 以下は前置詞句であって目的語ではないので、単目的他動詞 membeli である。

このような untuk 与格交替をする動詞には次のようなものがある。

表2 untuk 与格交替をする動詞

membeli / membelikan	「買う buy」	membuat / membuatkan	「作る make」
membaca / membacakan	「読む read」	membawa / membawakan	「運ぶ carry」
mencari / mencarikan	「さがす seek」	menulis / menuliskan	「書く write」
memasak / memasakkan	「料理する cook」	memilih / memilihkan	「選ぶ choose」

2.2 kepada 与格動詞

英語の to 与格動詞に対応する kepada 与格動詞の場合は、少し複雑になる。

(12) Ia mengirim buku itu.

He sent the book.

(13) Ia mengirimkan anaknya buku itu.

He sent his son the book.

バタオネ・近藤によれば、untuk 与格動詞同様に、動詞 mengirim は単目的他動詞であり、接尾辞 -kan をつけて mengirimkan にすると二重目的他動詞になるのだが、mengirim のような kepada 与格動詞では与格構文において「接尾辞 -kan を付加してもよい⁶⁾」としている。

(14) a. Ia mengirim buku itu kepada anaknya.

b. Ia mengirimkan buku itu kepada anaknya.

He sent the book to his son.

接尾辞 -kan のない (14) a と、接尾辞 -kan をつけた b との意味のちがいはない。

このような kepada 与格交替をする動詞には次のようなものがある。

表3 kepada 与格交替をする動詞

menunjuk / menunjukkan	「指し示す show」	melapor / melaporkan	「報告する report」
membayar / membayarkan	「支払う pay」	mengusul / mengusulkan	「提案する propose」
mengajar / mengajarkan	「教える teach」	mengirim / mengirimkan	「送る send」

どのような動詞が untuk 与格交替ないし kepada 与格交替をするのかについては、バタオネ・近藤は「『untuk』が『~のために』と『利益・恩恵』を示すのに対し、『kepada』は『~に』という『方

向』を示すことを考えると、大体見当がつくだろう。英語の『for』と『to』の関係とほぼ同様に考えてよい⁷⁾』と述べている。また、「動詞によっては『untuk』『kepada』の両方を用いるものもある⁸⁾』と言うが、具体的な動詞は挙げていない。

なお、例文(5)に示したように、接尾辞-iのうち二重目的語構文をとるものがあるが、今回は扱わない。

2.3 問題点の整理

以上、バタオネ・近藤の説明を見てきたが、彼らによれば二重目的語構文に関してインドネシア語と英語はほとんど同じであるように見える。とくに前置詞の使い分けについては、*untuk* = *for*、*kepada* = *to* であって、動詞の分類も英語の *for* 与格動詞 / *to* 与格動詞にほぼ対応している。ひとつおりの英文法を理解している日本人学習者にとっては、理解しやすい説明ではある。しかしながら、この解釈には以下のように多くの問題点がある。

- ① *untuk* 与格動詞について、例えば「買う」*membeli* は単目的他動詞であり、接尾辞 *-kan* を付することで二重目的語構文になるとしているが、実際には *membelikan* が与格構文や単目的他動詞として用いられている例がたくさんある。それらはみな「例外」ないし「誤り」と見なしでよいのだろうか。
- ② *untuk* 与格動詞のうち *menulis* 「書く」は、対応する英語 *write* は *for* 与格動詞ではなく *to* 与格動詞である。そのため、*menuliskan* は「～に書く」のではなく「～のために(～のかわりに)書く」という意味になる。このように英語と意味がずれるものがあるにもかかわらず、そのことに触れられていない。
- ③ *kepada* 与格動詞では、「与格構文において *-kan* を付加してもよい」という微妙な表現をしているが、なぜ *kepada* の場合はどちらでもよいのかわからない。実は *kepada* 与格動詞に関するバタオネ・近藤の説明は実情とちがっている。例えば、*mengirim* 「送る」は単目的他動詞で、接尾辞 *-kan* をつけた *mengirimkan* が二重目的他動詞であるとしているが、実例を見るかぎり *mengirim* も *mengirimkan* もまったく同じように使われている。
- ④ *kepada* 与格動詞の代表とも言うべき *memberi* / *memberikan* 「与える」について、何も述べていない。やはり彼らは *memberi* が単目的、*memberikan* が二重目的と考えているのだろうか。⁹⁾
- ⑤ 実は *kepada* 与格動詞は *untuk* 与格動詞に比べて多様であり、動詞ひとつずつ検証する必要がある。*memberi* / *memberikan* 「与える」、*mengirim* / *mengirimkan* (/ *mengirimi*) 「送る」、*mengajar* / *mengajarkan* (/ *mengajari*) 「教える」の3つは実際の用例が微妙で、分析が難しい。少なくとも、これらの動詞をひとまとめにして同じ構文をとると結論づけることはできない。
- ⑥ 二重目的語構文や与格構文は、いわゆる「受動態」(di-動詞構文)ではどのようなふるまいを示すだろうか。与格・対格のどちらも主語にすることが可能なのか。この問題は、二重目的語+受動態というのが中級以上の文法事項になるためか、従来の入門書ではほとんどふれられていない。

以上のような問題点をふまえて、いくつかの動詞の実際の使用例を見ながら、今まで見てきたバタオネ・近藤(1989)のほか、バタオネ・小林(2001)、牛江(1975)、松岡(1990)、

Dardjowidjojo (1983) 等の解釈を参考にして、二重目的語構文の分析を行う。バタオネ・近藤の説明には問題があるものの、接尾辞 *-kan* 動詞を *untuk* 与格動詞と *kepada* 与格動詞に分けることには意味はあると思われる。そこで、以下の章では、その分け方に従ってまず *untuk* 与格動詞の分析から始める。

2.4 データと方針

この論文では、コーパスによる実際の用例にもとづいた分析を試み、基本的に母語話者の直観を利用しない。その理由は、インドネシア語のきわだった特徴として、他の言語においては楽観的に想定されうる「母語話者」というものが、厳密な意味でほとんど存在しないからである。インドネシア語は、国家建設のためにいわば人工的に選ばれ、作られた言語である。そのため、インドネシア人の多くはインドネシア語を不自由なく話せるにもかかわらず、彼らの母語は、ジャワ語・スダ語等の地方語なのである。したがって、容易に想像できることであるが、インドネシア語は話者の母語の影響を強く受け、話し手による差異が大きい。そのため、インフォーマントへの調査を行う際には、その出身地・階層等について細心の配慮が必要になるだろう。母語話者への調査が必要であることは当然だが、それは別の機会に譲りたい。

用例のデータは、インターネット上で *google* を使って集めた。具体的には、検索オプション機能を利用し、例えば動詞 *membelikan* の実例について「一年以内に更新された *www.kompas.com* のインドネシア語のページ」と範囲を限定して検索を行った。*Kompas* はインドネシアの代表的な新聞の一つであり、これによって新聞紙面上での現在の *membelikan* の用例を集めることができる。実際にこの方法では *membelikan* は 2005 年 1 月 8 日現在で 5640 件ヒットするが、すべて検討することは不可能なので、その中から文意が明快で主語等の省略がなく、構文のはっきりしているもののうち、最初の 50 件について分析した。以下で断らずにデータを示しているものは、すべてこの方法によっている。50 件というデータ数が妥当なものかどうか、議論の余地があろう。また、50 件中になかった用例を、さらに検索の範囲を広げて見つけたものもあり、これについてはそのつど断った。以下用例について *Kompas* からとったものは (*Kompas*) とのみ表示し、年月日等は省略した。

3 *untuk* 与格動詞の分析

3.1 *membeli* / *membelikan* 「買う buy」

untuk 与格動詞の代表として、まず *membeli* / *membelikan* から見てみよう。すでに紹介したようにバタオネ・近藤によれば、*membeli* / *membelikan* のとる構文は

- (15) a. S *membeli* A. 単目的他動詞
 b. S *membelikan* D A. 二重目的語構文
 c. S *membeli* A *untuk* D. *untuk* 与格構文

のいずれかである。ここで、S: subject(主語), A: accusative(対格=直接目的語、~を), D: dative(与格=間接目的語、~に)をあらわす。動詞 *membeli* は単目的他動詞であり、接尾辞 *-kan* を付加してはじめて二重目的他動詞になる。したがって、彼らによると、

- (15) d. * S membelikan A. 単目的他動詞
 e. * S membeli D A. 二重目的語構文
 f. * S membelikan A untuk D. untuk 与格構文

はいずれも誤りである、ということになる¹⁰⁾。この中でeの構文が存在しないことはまちがいないと思われる(そのような例は見つからない)。動詞 *membeli* の場合、接尾辞 *-kan* をつけずに二重目的語構文を作ることはできない。ところが、実際にはdやfの文は数多く見られる。

反例: (15) d. S membelikan A. の例 (Kompas)

- (16) Waktu saya umur 12 tahun, ayah membelikan sebuah gitar.
 When I was 12 years old, father bought a guitar.

「私が12歳のとき、父はギターを買ってくれた。」

反例: (15) f. S membelikan A untuk D. の例 (Kompas)

- (17) Ayah juga membelikan hadiah mukena dan sajadah untuk Ibu.
 Father also bought a present of "a kind of veil and mat" for mother.

「父はまた母のために、ベールとマットの贈り物を買ってやった。」

(16) の文では、間接目的語「~に」自体が存在しない。「私に」が文意から明らかなので省略されたと考えることもできるが、このような文はけっして例外的ではない。また、(17) の文は *untuk* 与格構文なので、バタオネ・近藤の解釈では、接尾辞 *-kan* をつけてはならないのであった。google による用例 50 の分析は以下の通りである。

表4 *membelikan* の用例

a. S	<i>membelikan</i>	A.			単目的他動詞	22
b. S	<i>membelikan</i>	A	<i>untuk</i>	D.	<i>untuk</i> 与格構文	13
c. S	<i>membelikan</i>	A	<i>buat</i> など	D.	<i>buat</i> 与格構文	4
d. S	<i>membelikan</i>	D	A.		二重目的語構文	11

aの構文はもともと二重目的語構文であったが与格Dが省略されたのだとか、本来は二重目的語構文であるはずが誤用されている、とは考えにくい。

牛江清名は、このような接尾辞 *-kan* を「便宜供与」と呼び、「~のために~する」という意味をあらわすとする¹¹⁾。便宜供与は *benefactive* の日本語訳であろう。*beli* 「買う」→ *belikan* 「買ってやる」という意味変化になる。牛江は、(15) b の二重目的語構文よりも先に (15) d の単目的語構文を正しいものとして示している。それどころか、次のような例文すら挙げている¹²⁾。

- (18) a. Siapa yang membeli? 「誰が買ったのですか」
 Who bought?
 b. Siapa yang membelikan? 「誰が買ってやったのですか」
 Who bought?

これらの文では、もはや対格(直接目的語)すら省略されてしまっている¹³⁾。英語では訳し分けることはたいへん難しいだろう。牛江による2つの和訳「買った」→「買ってやった」は、接尾辞 *-kan* の機能を正しく理解していると思われる。まさに「便宜供与」であり、主語と受益者が異なること(主語が主語以外の人利益のために動作を行うこと)をあらわしている。(18) b の文では(日本語文もふくめて)、けっして与格(~に)が省略されたわけではない。もともと、

「～に」は必要ないのである。

以上から、*untuk* 与格交替タイプの動詞 *membeli* の構文をまとめると次のようになる。

- (19) a. S membeli A. 単目的他動詞
 b. S membelikan A. 単目的他動詞 (便宜供与)
 c. S membeli A untuk D. *untuk* 与格構文
 d. S membelikan A untuk D. *untuk* 与格構文 (便宜供与)
 e. S membelikan D A. 二重目的語構文
 f. * S membeli D A. 誤り

fのみが誤りであることが明らかである。c・dの*untuk* 与格構文では、*membeli* / *membelikan* のどちらも使えるが、接尾辞 *-kan* をつけると便宜供与「～してやる」「～してあげる」「～してもらう」という意味が加わり、日本語での以下の使い分けに対応する。

- (20) c. 私は息子のために本を買った。
 d. 私は息子のために本を買ってやった (買ってあげた)。

英語の *for* 与格交替タイプの動詞 *buy* の構文は、

- (21) a./b. S buy A. 単目的他動詞
 c./d. S buy A for D. *for* 与格構文
 e. S buy D A. 二重目的語構文

であり、インドネシア語の a/b、c/d のような便宜供与「～してやる」を訳すことができない。つまり、インドネシア語の便宜供与接尾辞 *-kan* は、(見かけ上の語順を除けば) 英語の二重目的語構文とは本質的に異なるものであり、むしろ日本語の「やりもらい」動詞に近いものといえる。以上をまとめると、次のようになる。

- ①英語では動詞 *buy* の形を変えることなく二重目的語構文を作ることができるが、インドネシア語では、動詞 *membelikan* に接尾辞 *-kan* を付加して二重目的語構文を作る。
 ②接尾辞 *-kan* の機能は、二重目的語構文化ではなく便宜供与なので、bのような単目的語構文やdのような与格構文もとることができる。
 ③接尾辞 *-kan* の意味「便宜供与」は、日本語では「～する」→「～してやる」に対応するが、英語ではこれを示すことはできない。

3.2 mencari / mencarikan 「さがす seek」、membuat / membuatkan 「作る make」

untuk 与格動詞である *mencari* / *mencarikan* 「さがす」、*membuat* / *membuatkan* 「作る」も、*membeli* / *membelikan* 「買う」とほぼ同じ傾向にあるといえる。これらの動詞は、*membelikan* よりも、二重目的語になりにくい。

表5 *mencarikan* の用例

a. S	<i>mencarikan</i>	A.			単目的他動詞	38
b. S	<i>mencarikan</i>	A	<i>untuk</i>	D.	<i>untuk</i> 与格構文	5
c. S	<i>mencarikan</i>	A	<i>buat</i> など	D.	<i>buat</i> 与格構文	6
d. S	<i>mencarikan</i>	D	A.		二重目的語構文	1

表6 *membuatkan* の用例

a. S	<i>membuatkan</i>	A.			単目的他動詞	35
b. S	<i>membuatkan</i>	A	<i>untuk</i>	D.	<i>untuk</i> 与格構文	12
c. S	<i>membuatkan</i>	A	<i>buat</i> など	D.	<i>buat</i> 与格構文	1
d. S	<i>membuatkan</i>	D	A.		二重目的語構文	2

なお、英語では、*mencarikan* に相当する動詞 *seek*, *search*, *look for* 等はいずれも二重目的語構文はとらない。

3.3 *menjual* / *menjualkan* 「売る *sell*」、*menulis* / *menuliskan* 「書く *write*」

インドネシア語の接辞 *-kan* は便宜供与をあらわし、英語の *for ...* に対応するため、英語と意味がずれるものがある。その代表が *menjual* / *menjualkan* 「売る」である。

- (22) a. *Saya menjual mobilnya.* 単目的他動詞
 I sold the car.
- b. *Saya menjualkan mobilnya untuk teman saya.* *untuk* 与格構文
- c. ? I sold the car for (the benefit of) my friend.
 「私は友だちのためにその車を売ってやった」
- d. I sold the car to my friend. *to* 与格構文
- e. I sold my friend the car. 二重目的語構文
 「私は友だちにその車を売った」

menjualkan は「～のために売る」「～の利益になるように売ってやる」という意味になる。(22) b は「(友だちがお金を必要としているので) 私は友だちのために、友だちの車を (第三者に) 売ってやった」という意味である。*untuk* は英語 *for* に対応するが、(22) c はやや不自然な英文である。一方、英語では *sell* は *for* 与格動詞ではなく *to* 与格動詞であるので、(22) d、e はいずれも「私の車を友だちに売った」という意味になる。

- (22) f. ? *Saya menjualkan teman saya mobilnya.* 二重目的語構文?
 「私は友だちのために自動車を売ってやった」

インドネシア語で (22) b の与格構文に対応する二重目的語構文は (22) f であるが、はたしてこのような文が成り立つか疑問である。意味がとりづらくなり、あまり使われないのではないか。この点からも、従来のような「便宜供与をあらわす *-kan* は二重目的語構文を作り、その書きかえとして *untuk* 与格構文になる」という解釈はおかしい。「*-kan* は便宜供与をあらわし、必要であれば *untuk* 以下で受益者を示す。さらに意味をとりちがえる心配がなければ、動詞によっては二重目的語構文にすることも可能である」という方がよい。

なお、「他人のかわりに売ってやる」という場面は日常生活ではそれほどないので、動詞 *menjualkan* はあまり使われない。*Kompas* では *menjualkan* はわずか 8 件である (*menjual* は 1790 件!)。また、(22) f のような二重目的語構文はもとより、*untuk* 与格構文の例も見当たらない。以下の例文が *menjualkan* の性格をよくあらわしているだろう。

menjualkan の例 (Kompas)

(23) Orang yang mau menyimpan barang malingan atau menjualkan barang hasil maling, maka disebut maling caluwed.

「盗んだ品物を隠そうとしたり、盗んだ品物をかわりに売ってやろうとしたりする人は、maling caluwed と呼ばれる」

menulis / menuliskan 「書く」も、menjual / menjualkan 「売る」と同様に、英語と意味がずれる。英語では「～に書く」であるが、インドネシア語では「～に書いてやる」「～のかわりに書く」である。¹⁴⁾

以上、便宜供与をあらわす接辞 -kan をまとめると次のようになる。

- ①接辞 -kan は me- 他動詞につき、便宜供与「～してやる」をあらわす。
- ② me-kan 動詞は、ふつうの me- 動詞と同じく単目的他動詞として用いられるが、受益者を示すときは untuk 与格構文をとり、場合によっては二重目的語構文をとることもできる。これらは、形態上は英語の for 与格構文・二重目的語構文に似ている。
- ③ menjualkan 「売ってやる」、menuliskan 「書いてやる」等では、英語の二重目的語構文・与格構文とは意味がずれる。(ただし、それほど使われない)

3.4 インドネシア語の便宜供与と英語の二重目的語構文

以上のように、インドネシア語の me- 他動詞につく接辞 -kan は、membelikan 「買ってやる」や membuatkan 「作ってやる」では、対応する英語の buy 「買う」、make 「作る」に似た二重目的語構文や与格構文を作るが、menjualkan 「売ってやる」や menuliskan 「書いてやる」では対応する英語 sell 「売る」、write 「書く」と意味がずれることが明らかになった。なぜこのような意味のずれが生じるのだろうか。もう一度、英語の for 与格交替タイプの二重目的語構文について検討しよう¹⁵⁾。

- (24) a. Father made a model plane for his son. for 与格構文
 b. Father made his son a model plane. 二重目的語構文

(24) a のような for 与格構文と b のような二重目的語構文とでは、意味のちがいが生じることがある。第一に、a の与格構文は、場合によっては、ちょうどインドネシア語の便宜供与のように、「息子のために」= 「息子のかわりに」という意味にもとれるが、b は「息子に」という意味に限定される。第二に、b の二重目的語構文では与格 D と対格 A の間に必ず D HAVE A という所有関係が意識されている点である。つまり、b の文は「父は息子のために模型飛行機を作ってあげた」のに対し、a の文では「父は息子のために作ったのだが、息子は受け取らなかつた」可能性が生じるのである。この所有関係の含意は次のような文でより明らかである。

- (25) a. John opened the door for Mary. for 与格構文
 b. * John opened Mary the door. 二重目的語構文
 c. John opened the beer for Mary. for 与格構文
 d. John opened Mary the beer. 二重目的語構文

(25) a は「ジョンはメアリーのためにドアを開けてやった」という意味だが、これを b のように二重目的語構文にすることはできない。なぜなら、Mary HAS the door. という所有関係は不可能であるからである。しかし同じ open という動詞でも「ビール (の栓) を開けてやった」な

らば、Mary HAS the beer. は可能であるので d のような二重目的語構文を作ることができるのである。

一方、インドネシア語の便宜供与 -kan は、先にも述べたように「他人の便宜のために行う」すなわち「行為者と受益者が異なる」ことを示すものであり、こうした所有関係とは無関係である。

- (26) a. Dia membelikan buku itu untuk anaknya.
 b. Dia membelikan anaknya buku itu.
 c. He bought the book for his son.
 d. He bought his son the book.
 e. Dia menjualkan mobil itu untuk temannya.
 f. ? Dia menjualkan temannya mobil itu.
 g. He sold the car to his friend.
 h. He sold his friend the car.

(26) a・b のインドネシア語は、「本を買う」行為者は dia 「彼」であるが、受益者は anaknya 「息子」であることをあらわしている。英語 c は「息子のために」買ったので、a・b に近い。英語 d は his son HAS the book という所有関係を示しているため、ふつうは c と同じ意味になり、インドネシア語 a・b とほぼ同じ意味をあらわす。結局、インドネシア語 membelikan は英語 buy に近い。

一方、インドネシア語 e は「売る」という行為の受益者が行為者 dia 「彼」ではなく temannya 「友だち」であることを示す。「友だちの利益になるように車を売った」のであり、その車の新しい所有者は第三者である。f の二重目的語構文は成立するか疑わしい。しかし、英語 g で to は車の移動する方向（車の所有権が彼から友だちへと移動）をあらわし、h では his friend HAS the car という新しい所有関係を示しているため、いずれも車の新しい所有者は友だちであることになり、インドネシア語 e と意味のずれが生じたのである。

3.5 untuk 与格動詞の受動態

では、便宜供与をあらわす me-kan 動詞の受動態はどうなるのだろうか。

インドネシア語では、me- 他動詞は一般に次のようにして受動態を作ることができる¹⁶⁾。

- (27) a. Semua orang membaca buku itu.
 Everyone reads the book.
 b. Buku itu dibaca (oleh) semua orang.
 The book is read by everyone.

すなわち、以下のような構造になる。

- (28) a. [S] me- A. 能動態
 b. A di- (oleh) [S]. 受動態

このように他動詞の接頭辞 me- を di- に置きかえることにより、受動態が作られる。語順は英語と似ている。by にあたる単語は oleh であるが、通常（文意に支障がなければ）省略される。

さて、動詞 membelikan のとる構文は以下の通りであった。

- (29) a. S membelikan A. 単目的他動詞 (便宜供与)
 b. S membelikan A untuk D. untuk 与格構文
 c. S membelikan D A. 二重目的語構文

したがって、次のような受動態が予想される。

- (30) a. A dibelikan (untuk D) (oleh S). 対格主語
 b. D dibelikan A (oleh S). 与格主語

牛江は、まさに動詞 *membelikan* を例にあげて、この2種類の受動態が可能であるとしている¹⁷⁾。ところが実際には次のようになる¹⁸⁾。

- (31) a. ? Buku itu dibelikan untuk saya. 対格主語
 b. The book was bought for me.
 「その本は私のために買われた」
 (31) c. Saya dibelikan buku itu. 与格主語
 d. *I was bought the book.

「私はその本を買ってもらった」

(31) a のような対格 (直接目的語) 主語ではなく、c のように与格 (間接目的語) が主語になる。これは、英語の二重目的語構文 *He bought me the book.* が、受動態で与格 (間接目的語) *me* を主語にすることはできず、必ず対格 (直接目的語) *the book* が主語になるのと対照的である。(31) a のように対格を主語にするときは、*untuk* 以下のあるなしにかかわらず、接辞 *-kan* のない *dibeli* という形が使われる。

- (32) a. Buku itu dibeli (untuk saya). 対格主語
 b. The book was bought for me.

もう一度表4の調査結果を見てみよう。

表4 *membelikan* の用例 (再掲)

a. S	<i>membelikan</i>	A.		単目的他動詞	22
b. S	<i>membelikan</i>	A	<i>untuk</i>	D. <i>untuk</i>	与格構文
c. S	<i>membelikan</i>	A	<i>buat</i> など	D. <i>buat</i>	与格構文
d. S	<i>membelikan</i>	D	A.		二重目的語構文

能動態 *membelikan* では与格 D は必ずしも必要ではなく、D を目的語としてとる二重目的語構文は全体の2割 (11/50) しかない。しかし、受動態では d の文から作られたと考えられる

e. D	<i>dibelikan</i>	A.		与格主語
------	------------------	----	--	------

の文が多いのである。このことは何を意味するのであろうか。

さらに、次のような文が存在する。

具格主語受動態構文の例 (Kompas)

- (33) Uang itu *dibelikan* keperluan bayi dan anak-anak pengungsi.
 * The money was bought necessity of refugee's babies and children.
 「そのお金は、避難民の赤ん坊や子どもたちに必要なものを買うために使われている」

この受動態は不思議な構造をしている。受動態の主語 uang itu を目的語（対格）として対応する能動態を作ると、(34) になる。

- (34) ? Mereka membelikan uang itu keperluan bayi dan anak-anak pengungsi.
 * They bought the money necessity of refugee's babies and children.

「彼らはそのお金で避難民の赤ん坊や子どもたちに必要なものを買った」

英語では、能動態・受動態ともにまったく成り立たない文である。このような接尾辞 -kan は具格 instrumental (略称: I) と呼ばれる。インドネシア語では、受動態 (33) は存在するが、能動態 (34) は文として成立しないと思われる。(34) のように具格を目的語とする文は、membelikan の調査では見つからなかった。むしろ、次のような文が想定される。

- (35) Mereka membeli keperluan bayi dan anak-anak pengungsi dengan uang itu.
 They bought necessity of refugee's babies and children with the money.

このように道具・手段をあらわす dengan (英語の with) を使ってあらわされる部分が、受動態の主語になっている。

表7 dibeli の用例

a. A	dibeli	(untuk D).	対格主語	50
------	--------	------------	------	----

表8 dibelikan の用例

a. A	dibelikan	(untuk D).	対格主語	3
b. D	dibelikan	A.	与格主語	22
c. I	dibelikan	A.	具格主語	25

具格 I を主語とする c の構文は、意外に多い。インドネシア語では、英語のように能動態における目的語が受動態において主語になる、とは言えない。この構文は、後の 5 章でもう一度分析することにする。

他の untuk 与格動詞の受動態はどうなるであろうか。membelikan / dibelikan は具格主語という特殊な構文が存在したが、dicarikan や dibuatkan には具格はなくすべて与格主語をとる。

表9 dicari / dicarikan の用例

a. A	dicari	(untuk D).	対格主語	50
b. D	dicari	A	与格主語	0
c. A	dicarikan	(untuk D.)	対格主語	0
d. D	dicarikan	A.	与格主語	50

以上、untuk 与格動詞の受動態についてまとめると、以下のようなになる。

- ① untuk 与格動詞の受動態は、対格（直接目的語）を主語にするときは動詞 di-（接辞 -kan なし）形、与格（間接目的語）を主語にするときは動詞 di-kan 形になる。
- ② 英語でこれに対応する for 与格動詞では、つねに対格のみを主語とし、与格主語の受動態を作

ることはできない。

③動詞 *membelikan* の受動態 *dibelikan* では、対応する能動態が存在しないにもかかわらず、具格主語という特殊な構文がある。

以上で *untuk* 与格動詞の分析を終え、次に *kepada* 与格動詞について考えてみよう。

4 *kepada* 与格動詞の分析

4.1 *memberi* / *memberikan* 「与える give」

memberi / *memberikan* 「与える」は、英語の *give* に相当する動詞である。今まで見てきたような *untuk* 与格動詞とは、まったく異なった使われ方をしている。

memberi の例 (Kompas)

- (36) a. Saya tidak akan memberi hadiah Natal yang mahal kepada anak.
I will not give a Christmas present which is expensive to my son.

「私は子どもに高いクリスマスプレゼントをあげられないだろう。」

- (36) b.¹⁹⁾ Saya tidak akan memberi anak hadiah Natal yang mahal.
I will not give my son a Christmas present which is expensive.

- (37) Kembang di ruang tamu selalu memberi suasana segar.
Flowers in the guest room always give a fresh mood.

「応接室の花は、いつも新鮮な雰囲気を与える」

(36) a は、英語の *to* 与格構文に対応する *kepada* 与格構文の例である。ところが、この文に対応する (36) b のような二重目的語構文は非常に少ない。また (37) のように、与格がまったく存在しない単目的他動詞として *memberi* を用いている例が多い。(37) の英文は正しいが、動詞 *give* は基本的に与格をとるほうが自然である。

表 10 *memberi* の用例

a. S	<i>memberi</i>	A.		単目的他動詞	31
b. S	<i>memberi</i>	A	<i>kepada</i> D.	<i>kepada</i> 与格構文	9
c. S	<i>memberi</i>	A	<i>pada</i> など D.	<i>pada</i> 与格構文	9
d. S	<i>memberi</i>	D	A.	二重目的語構文	1

表 10 は *memberi* の用例 50 の分析であるが、英語 *give* では自然な二重目的語構文はわずか 1 例しかなく、英語ではやや不自然と思われる単目的他動詞として使われている例がもっとも多い。

動詞 *memberi* については、言及のないバタオネ・近藤をのぞき、基本的に二重目的他動詞であるとされてきた。しかし実際の用例を見るかぎり、この定説は揺らぐことになる。英語 *give* が二重目的であるという先入観にとらわれていたのではないか。英語 *give* とちがひ、インドネシア語 *memberi* は二重目的語構文をあまりとらないといえる。

では、*memberikan* はどのような使われ方をしているだろうか。この接辞 *-kan* は *untuk* 与格動詞の *-kan* と同様に便宜供与をあらわすだろうか。

表 11 memberikan の用例

a. S	memberikan	A.		単目的他動詞	29
b. S	memberikan	A	kepada D.	kepada 与格構文	13
b. S	memberikan	A	pada など D.	pada 与格構文	8
c. S	memberikan	D	A.	二重目的語構文	0

表 10 と 11 を比べると、memberi と memberikan はほとんど同じように使われていることがわかる。memberikan も memberi 同様に二重目的語構文はとらない。なお、Kompas での一年以内の記事の memberi / memberikan の総数は memberi : 14,500 に対し memberikan : 19,600 である。これらのデータを見るかぎり、memberi と memberikan は用法上に差はないと結論づけるよりない。接辞 -kan の機能は不明である。

Dardjowidjojo は、memberi は二重目的語構文をとり、memberikan は二重目的語構文または与格構文をとるとしている²⁰⁾。松岡も同様のことを述べている²¹⁾が、実例を見るかぎりそのように結論づけることはできない。ただし、“memberi saya” 21 件に対し、“memberikan saya” は 3 件であり、確かに memberikan のほうが与格目的語をとりにくいかもしれない。また、次の章で説明する受動態のふるまいを考えると、そう考える一応の根拠はある。

接辞 -kan の機能を便宜供与と考えることができない一つの理由として、動詞 memberi 「与える」にはもともと授与の意味が含まれていることがあげられる。つまり、membeli「買う」や mencari「さがす」では、ふつうは「自分のために」買ったりさがしたりすることが多く、「他人のために」行うことを示すために、便宜供与をあらわす接辞 -kan を付け加える。しかし、memberi 「与える」では、「他人のために」行うことが動詞の本来の意味として含まれている。前者の動詞が untuk 与格動詞であり、後者が kepada 与格動詞ということになる。

4.2 memberi / memberikan 「与える give」の受動態

さて、memberi / memberikan の受動態の用法を調べると、たいへん興味深いことがわかる。

memberi の受動態 diberi の例 (Kompas)

- (38) Sekitar 15,000 relawan Pemilu belum diberi upah.
About 15,000 volunteers of a general election have not yet been given pay.
「総選挙の約 15,000 人のボランティアは、まだ報酬を受け取っていない。」

memberikan の受動態 diberikan の例 (Kompas 一部改)

- (39) Bantuan di antaranya diberikan kepada masyarakat di Aceh Utara.
Aid among them is given to communities in North Aceh.
「援助はとりわけ北アチェの社会に与えられている。」

(38) (39) を見ると、diberi は与格を主語にし、diberikan は対格を主語とするというはっきりとした対立がある²²⁾。

表 12 diberi / diberikan の用例

a. A	diberi	(kepada D) .	対格主語	0
------	--------	--------------	------	---

b. D	diberi	A	与格主語	50
c. A	diberikan	(kepada D.)	対格主語	48
d. D	diberikan	A.	与格主語	2

前章で検討した、*untuk* 与格動詞の受動態と比較してほしい。

表9 *dicari* / *dicarikan* の用例 (再掲)

a. A	<i>dicari</i>	(<i>untuk</i> D.)	対格主語	50
b. D	<i>dicari</i>	A	与格主語	0
c. A	<i>dicarikan</i>	(<i>untuk</i> D.)	対格主語	0
d. D	<i>dicarikan</i>	A.	与格主語	50

顕著なちがいが見てとれる。なぜこのような現象が起こるのだろうか。以上をまとめると、次のようになる。

- ① *kepada* 与格動詞である *memberi* 「与える」は、*memberi* と接辞 *-kan* をつけた *memberikan* との間に用法・意味のちがいはない。接辞 *-kan* の意味は「便宜供与」ではなく、不明である。
- ② *memberi* に対応する英語 *give* はふつう二重目的語構文をとるが、インドネシア語では *memberi* / *memberikan* のどちらも二重目的語構文をあまりとらない。英語 *give* では不自然である単目的他動詞として用いられることも多い。
- ③ 受動態では、*diberi* は与格を主語とし *diberikan* は対格を主語とするというはっきりとした区別がある。これは *untuk* 与格動詞とは対照的である。

4.3 その他の *kepada* 与格動詞

その他の *kepada* 与格動詞として、*mengirim* / *mengirimkan* / *mengirimi* 「送る」や *mengajar* / *mengajarkan* / *mengajari* 「教える」などがある。これらは、上に述べた *memberi* / *memberikan* 「与える」とは異なり、接尾辞 *-kan* のほかに、接尾辞 *-i* の形も存在する。そのためもあってか、*memberi* / *memberikan* のようなはっきりとした特徴がなく、用法にゆれもあって、分析が難しい。

ここでは、*mengirim* 「送る」や *mengajar* 「教える」は、実際の用例を見る限り、今までに検討してきたどの動詞ともタイプが異なっていることを指摘するにとどめ、詳細は別の機会にゆずる。

5 考察

5.1 接辞 *-kan* の機能に関する考察

以上述べてきたように、状況は複雑である。それでも、いくつかの仮説を提案することは可能である。

まずおさえておく必要があるのは、インドネシア語の受動態 *di-* 形は、必ずしも対応する能動態 *me-* 形から作られたものと考えすることはできない、という点である。英語の受動態は、必ずそれに対応する能動態が存在する。受動態の主語は、能動態において動詞の直後におかれた目的語

である。このことは、二重目的語構文の受動態において明らかである。

- (40) a. Mary was given a present by John.
 b. A present was given to Mary by John.
 c. John gave Mary a present.
 d. John gave a present to Mary.

英語では、二重目的語構文の受動態において、与格(間接目的語)主語では(40)aのようになるが、対格(直接目的語)主語のときはbのように与格 Mary の前に前置詞 to を入れるほうが自然である。それは、a・b はいずれも c の二重目的語構文からつくられた受動態なのではなく、与格主語 a は二重目的語構文 c から作られたものだが、対格主語 b は与格構文 d から作られたと考えられているからである。つまり、能動態において動詞の直後におかれた目的語を主語として受動態を作るため、二重目的語構文 c において対格 a present を主語にして受動態を作ることはできない。そこで、対格 a present を動詞 gave の直後に移動し与格構文 d に変形してから対格主語の受動態 b を作ったのである。

- (41) a. Mary dibelikan hadiah (oleh John).
 b. Hadiah dibeli untuk Mary (oleh John).
 c. John membeli hadiah.
 d. John membeli hadiah untuk Mary.
 e. John membelikan hadiah.
 f. John membelikan hadiah untuk Mary.
 g. John membelikan Mary hadiah.

インドネシア語でも、英語と同様に「与格主語 a は二重目的語構文 g から作られ、対格主語 b は与格構文 d から作られた」と考えることは可能である。しかしそうすると、実際に数多く使われている便宜供与文 e や与格構文 f からは受動態が作れないことになってしまう。そのためバタオネ・近藤は、e や f は存在しない(誤りである)という結論を出したのであろう。しかし、それは英文法における能動態/受動態にとらわれている。インドネシア語の受動態においては、もとの能動態において動詞が membeli であったか membelikan であったかとは関係なく、対格主語受動態では dibeli、与格主語では dibelikan を用いると考えなければならない。そうしないと、単純な便宜供与文 e は、Hadiah dibelikan. とすることができないため、受動態が存在しないことになってしまう。つまり、能動態が c~g のいずれであっても、対応する対格主語受動態では b のように動詞 dibeli を使い、与格主語受動態では必ず dibelikan を用いる。

そうなると、インドネシア語の di- 動詞構文は、確かに語順上英語の受動態に似ているけれども、英語と同じような受動態であると考えerことは適当でない。さらにその証拠として、すでに述べた具格主語構文がある。

- (42) a. Uang itu dibelikan hadiah (oleh John).
 b.* The money was bought a present (by John).
 c.? John membelikan uang itu hadiah.
 d.* John bought the money a present.
 e. John membeli hadiah dengan uang itu.
 f. John bought a present with the money.

(42) a の具格主語受動態構文は、「そのお金はプレゼントを買うために使われた」というような意味になる。逐語訳した英文 b はまったく意味をなさない。さらに、a から機械的に想定されるインドネシア語能動態 c も不自然である。a の意味にもっとも近い自然なインドネシア語は e であり、dengan 以下であらわされる道具・手段が受動態 a の主語になったと考えられる。また、e において動詞は membeli であり、接辞 -kan はついていない。-kan を付加することはできるが、意味は「便宜供与」になってしまうので、a とは意味がずれる。能動態 e から具格主語受動態 a が作られ、受動態になったときはじめて接辞 -kan が付加されると考えられる。

つまり、(41) a の dibelikan や (42) a の dibelikan における動詞接辞 -kan は、能動態 membelikan に対応する受動態ではなく、与格主語や具格主語を示すマーカーの働きをしているのではないだろうか。

me- 形における接辞 -kan の機能は、意味の付加(例えば、便宜供与)ないし統語上の変化(例えば、二重目的語構文)であり、di- 形における接辞 -kan の機能は、受動態の主語を示すマーカー(例えば、dibelikan では与格主語または具格主語、diberikan では対格主語)である。少なくとも今回見てきたような動詞においては、単純に「di-kan は me-kan の受動態である」と言うことはできないのである。

5.2 アウストロネシア語の焦点形とインドネシア語の接辞 -kan の関係

はじめにもふれたように、従来のインドネシア語文法研究においては、「アウストロネシア語族の中のインドネシア語」という視点が欠けていたように思える。フィリピン語(タガログ語)や台湾原住民諸語では、インドネシア語や英語のような能動態/受動態ではなく動詞の焦点形という現象がある。フィリピン語では、文中で行為者・対象・方向・受益者・場所等の中の一つに必ず焦点をあて、動詞はそれにあわせた焦点形をとる。焦点をあてられた単語は、主題を表示するマーカーがつけられ、他の補語とは異なった形をとる。以下フィリピン語の焦点形について説明する²³⁾。

- (43) a. Nagbigay siya ng libro kay Eva. 行為者焦点
 gave he the book to Eva.
 「彼はその本をエバに与えた。」
- (43) b. Ibinigay niya ang libro kay Eva. 対象焦点
 gave he the book to Eva.
 「彼はその本をエバに与えた」(その本は彼によってエバに与えられた)

フィリピノ語では通常、動詞が文頭に来て VS という語順になる。受動態は存在せず、この語順は基本的に変わらない。(43) a が基本となる行為者焦点の文である。行為者である *siya*「彼は」に焦点があたり、下線の動詞 *nagbigay*「与えた」は行為者焦点形をとっている。それに合わせて、焦点の当てられた *siya*「彼は」は主題であることを示す形になっている。一方 (43) b は対象焦点であるが、動詞が対象焦点形をとり、対象である *ang libro*「その本を」が主題形になっている。

(43) a・b を英語や日本語で訳し分けることは難しい。(43) b は「その本」が主題であるので、受動態として “The book was given to Eva.” とすることは可能ではある。しかしそれでは、もはや以下に示す他の焦点形を訳すことはできない。

(43) b の文は、今までに見てきたインドネシア語での対格主語受動態に対応しているように見える。そこで、フィリピノ語におけるいくつかの焦点形の例と、インドネシア語における対応する焦点形を主語とした受動態 (di- 動詞) 構文を比較してみることにしよう。以下の例では、フィリピノ語・インドネシア語は逐語訳ではなく自然な語順にしてある。動詞に下線を引き、フィリピノ語において焦点の当たっている単語とそれに対応するインドネシア語・日本語を□で囲った。

- (44) a. Nagbigay □*siya* ng libro kay Eva. 行為者焦点 (フィリピノ語)
 b. □*Ia* memberi buku itu kepada Eva. 行為者主語能動態 (インドネシア語)

「彼はその本をエバに与えた」

- (45) a. Ibinigay niya □*ang libro* kay Eva. 対象焦点 (フィリピノ語)
 b. □*Buku itu* diberikan kepada Eva (oleh dia). 対格主語受動態 (インドネシア語)

「彼はその本をエバに与えた」(□*その本は*エバに与えられた)

- (46) a. Binigyan niya ng libro □*si Eva*. 方向焦点 (フィリピノ語)
 b. □*Eva* diberi buku itu (oleh dia). 与格主語受動態 (インドネシア語)

「彼はその本を□*エバに*与えた」(□*エバは*その本を与えられた)

フィリピノ語では、語順を変えずに焦点の当たっている単語の形が他の2つとは異なる主題形になっていて、それに合わせて動詞が変化している。一方、インドネシア語では、「焦点」の当たっている単語が主語になり、やはりそれに合わせて動詞が変化している。

インドネシア語はアウストロネシア語族に属するにもかかわらず、インドネシア語文法において「動詞の焦点形」という発想はなかった。フィリピノ語において (44) a の動詞 *nagbigay* を行為者焦点形、(45) a の *ibinigay* を対象焦点形、(46) a の *binigyan* を方向焦点形と呼ぶのなら、インドネシア語においても *memberi*、*diberikan*、*diberi* をそれぞれ行為者焦点形・対象 (対格) 焦点形・方向 (与格) 焦点形と呼ばない理由はあるだろうか。少なくとも、従来のような能動態・受動態という発想よりも、はるかにすぐれているように思われる。

- (47) a. Ibinili niya ng libro □*si Eva*. 受益者焦点 (フィリピノ語)
 b. □*Eva* dibelikan buku itu (oleh dia). 与格主語受動態 (インドネシア語)

「彼はその本を□*エバのために*買ってやった」(□*エバは*その本を買ってもらった)

(46) と (47) を比べてみよう。フィリピノ語では、同じ *Eva* に焦点が当たっているが、動詞「与える」のときは動詞は方向焦点形になるが、動詞「買う」では受益者焦点形になる。このような

ちがいは、動詞が本来持っている意味に起因しているのだろう。この、アウストロネシア語族における方向焦点形と受益者焦点形の区別が、今まで分析してきたような、「なぜインドネシア語の受動態では、動詞 *membeli* 「買う」では対格 + *dibeli*、与格 + *dibelikan* なのに、動詞 *memberi* 「与える」では対格 + *diberikan*、与格 + *diberi* という正反対のふるまいをするのか」という疑問に対する一つの手がかりとなるのではないか。

- (48) a. Ibinambili niya ng libro ang pera ko. 道具焦点 (フィリピノ語)
 b. Uang saya dibelikan buku itu (oleh dia). 具格主語受動態 (インドネシア語)
 「彼はその本を私の金買った」(私の金はその本を買うために使った)

フィリピノ語には、(48) のような道具焦点形もある。フィリピノ語の道具焦点形に対応する形は、インドネシア語では具格主語受動態である。インドネシア語の接辞が複数の意味を持つ理由は、もともと別々の接辞であらわされていたものが、すべて接辞 *-kan* に合流したためなのかもしれない。

最後に、典型的な動詞 *mencari* 「探す」、*membeli* 「買う」および *memberi* 「与える」について「焦点」という観点からまとめておこう。

mencari 「探す」

<i>mencari</i> : 行為者焦点	<i>mencarikan</i> : 行為者焦点 + 便宜供与
<i>dicari</i> : 対象焦点	<i>dicarikan</i> : 受益者焦点

membeli 「買う」

<i>membeli</i> : 行為者焦点	<i>memberikan</i> : 行為者焦点 + 便宜供与
<i>dibeli</i> : 対象焦点	<i>dibelikan</i> : 受益者焦点 / 道具焦点

memberi 「与える」

<i>memberi</i> : 行為者焦点	<i>memberikan</i> : 行為者焦点 (<i>-kan</i> に機能はない)
<i>diberi</i> : 方向焦点	<i>diberikan</i> : 対象焦点

これらの動詞の「活用形」の数は、接頭辞が *me-*, *di-* の2つ、接尾辞はゼロ, *-kan* の2つなので、合計4つである。このうち、接頭辞 *me-* (いわゆる能動態) は、つねに行為者焦点であり、接尾辞 *-kan* は意味的・統語的变化をあらわす。一方、接頭辞 *di-* (受動態) は、焦点が行為者以外であることをあらわし、接尾辞 *-kan* の有無によって、さまざまな焦点を示すことが可能である。

mencari 「探す」、*membeli* 「買う」では、*me-* 形における接尾辞 *-kan* は、「便宜供与」の意味を与える。場合によっては、統語的に二重目的語構文にすることも可能だが、そうなることはそれほど多くない。一方 *di-* 形は対象焦点、*di-kan* 形は受益者焦点をあらわす。*mencari* では、4つの形が3つの焦点および便宜供与にきれいに対応している。ところが *membeli* では、このほかに道具焦点という形があるため、*di-kan* 形が「やむを得ず」受益者焦点と道具焦点の2つの意味を合わせ持つことになった。

memberi「与える」は、本質的に mencari, membeli とは異なるカテゴリーの動詞である。とりうる焦点は、行為者・方向・対象の3つである。そのため、me-, di-, di-kan がそれぞれ行為者焦点、方向焦点、対象焦点に割り当てられている。また、動詞本来の意味として便宜供与が含まれているため、mencari や membeli とはちがって me-kan に便宜供与の意味はない。したがって、me-kan という形は「本来」不要であり、me- と me-kan が意味的にも統語的にもほとんど同じ使われ方をすることになった。

「探す」「買う」が「誰が・何を」という2項動詞であるのに対し、「与える」は本質的に、「誰が・誰に・何を」という3項動詞であることも、動詞本来のカテゴリーのちがいに関係しているのかもしれない。

おわりに

この論文では、いくつかの典型的な動詞を中心に、便宜供与をあらわす接尾辞 -kan について分析を行ったが、さまざまな課題が残されている。まず、紙数の関係で触れることができなかったが、mengajar「教える」や mengirim「送る」は、おそらく memberi「与える」に近い動詞のように思われる。しかし、memberi のようなはっきりとした傾向を示しておらず、分析が難しい。また、それらの動詞には、接尾辞 -kan のほかに接尾辞 -i という形がある。一部の動詞における me-i も、me-kan 同様に「二重目的語構文」を作る（ように見える）が、me-kan とは本質的に異なるものであろう。

また、今回は接頭辞 me- と di- の2つを扱ったが、もう一つ「ゼロ接頭辞」という形がある。インドネシア語の「受動態」には、di- 形とゼロ形の2つがある。ゼロ形と di- 形は、語順のちがいを除けば、「焦点化」に関して同じような機能を持つものと考えられるが、本当にそうなのか、検討する必要がある。

何より大きな問題点は、「便宜供与」は、接尾辞 -kan の多様な機能のうちの一つに過ぎない、という点である。接尾辞 -kan には、「具格」「徹底」「使役」等さまざまな意味があり、どの動詞がどの意味を持っているのか、それらがたがいにどのような関係があるのか、明らかではない。今後は、動詞接辞用例辞典の作成といった基礎的な作業も含めて、さらに分析を進めていきたい。

注

- 1) 以下の例文で、特に断りが無いものは、長南が作成したものである。
- 2) 英語では、このような二重目的語構文の場合、目的語が普通名詞か代名詞か、あるいは旧情報か新情報か、ということが、文の「自然さ」に関する条件になることがある。例えば、二重目的語構文 (1) では、He sent his son a book. のほうが自然であり、対応する与格構文 (3) では、He sent the book to his son. になりやすいであろう。インドネシア語でも、同様のことが考えられる。本論では、煩雑さを避けるために、できるだけ同じ語 (the book) に統一した。本論の主旨には影響しないと思われるが、そのような意味で「不自然な」文もあることをお断りしておく。
- 3) インドネシア語は、修飾語の語順が英語とは異なる。英語では the book のように修飾+被修

飾であるが、インドネシア語は *buku itu* (lit. book that) のように被修飾+修飾である。このような名詞句内の語順については、逐語訳せずに自然な語順に直してある。

- 4) バタオネ・近藤 (1989) pp.184-187
- 5) バタオネ・近藤 (1989) p.184
- 6) バタオネ・近藤 (1989) p.185
- 7) バタオネ・近藤 (1989) p.185
- 8) バタオネ・近藤 (1989) p.185
- 9) バタオネ・小林 (2001) pp.40-41 では、*memberi / memberikan* 「与える」も、*membeli / membelikan* 「買う」と同様に、*memberi* が単目的、*memberikan* が二重目的と考えられているように見える。
- 10) (15) d-f. の3つの文に付した*は、長南ではなくバタオネ・近藤の判断である。
- 11) 牛江 (1975) pp.95-96
- 12) 牛江 (1975) p.95
- 13) ただし、これらの文は *membelinya* および *membelikannya* と、接尾辞 *-nya* をつけるほうが自然と思われる。
- 14) *menuliskan* には、便宜供与「〜に書いてやる」以外にも、「書きとめる」(徹底) や「〜を使って書く」(具格) という意味もある。
- 15) 岸本 (2001) p.127-153 以下、英語の二重目的語構文に関する分析は、同書による。
- 16) この他に、接頭辞 *me-* も *di-* もつかない形 (ゼロ形) を用いて、もう一つの「受動態」が作られるが、この論文では扱わない。
- 17) 牛江 (1975) p.115
- 18) データは、後掲表 8 に示す。
- 19) (36) b. は実際の用例ではなく、長南が (36) a. を書きかえて作成したものである。
- 20) Dardjowidjojo (1983) p.12
- 21) 松岡 (1990) p.88
- 22) 降幡 (1998) p.133 参照
- 23) 例文は、大上正直 (1994) 等を参考に、長南が作成した。

参考文献

データ・例文出典

Kompas, www.kompas.com

辞書

A Comprehensive Indonesian-English Dictionary, Ohio University Press, 2004

Kamus Besar Bahasa Indonesia, edisi ketiga, Balai Pustaka, Jakarta, 2001

Kamus Indonesia Inggris, edisi ketiga, Gramedia Pustaka Utama, Jakarta, 1989

(= *Indonesian-English Dictionary*, Cornell University Press)

Kamus Umum Bahasa Indonesia, cetakan ke16, Balai Pustaka, Jakarta, 1999

Goro Taniguchi (谷口五郎) (1988) *Kamus Standar Bahasa Indonesia-Jepang*, Dian Rakyat, Jakarta

佐々木重次 (2005) 『最新インドネシア語辞典』 第 1.2 版、Grup sanggar

参考文献

Badulu, Yus. (1983) *Membina Bahasa Indonesia Bakul-2*

バタオネ, ドミニクス/近藤由美 (1989) 『バタオネのインドネシア語講座 初級』, めこん

バタオネ, ドミニクス/小林和夫 (2001) 『バタオネのちょばちょばインドネシア語 2』, INJ

Dardjowidjoyo, S. (1983) *Beberapa Aspek Linguistik Indonesia*, Penerbit Djambatan, Jakarta

降幡正志 (1998) 『キーワードで覚えるやさしいインドネシア会話』, UNICOM

岸本秀樹 (2001) 「二重目的語構文」, 影山太郎 (編). 『日英対照 動詞の意味と構文』, 大修館書店

松岡邦夫 (1990) 『インドネシア語文法研究』, 大学書林

大上正直 (1994) 『フィリピン語文法入門』, 白水社

佐々木重次 (1990) 『インドネシア語の基礎』 1990 年版, 私家版

牛江清名 (1975) 『インドネシア語の入門』, 白水社